

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会

## 研修会記録

第 2 号

令和3年 9月8日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 池田 翼

【提案日時】

7月 7日 ( 水 )

提案 益満 順也 先生 (三ツ沢小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 藤巻 裕祐 先生 (大曾根小)

記録 杉山将一朗 先生 (神奈川小)

『単元名』 わたしたちの暮らしを支える政治

『授業者、提案者より』

### 単元を見通す学習問題

私たちはあまり利用しないけど、どうして市民病院は新しくする必要があったのだろうか。

### 本気の学習問題

市民病院はどんな病院にする必要があったのだろうか。

### 視点① 子どもの予想と見通しを大切にしたい単元づくり

○成果

- ・身近な地域からの「単元を見通す学習問題」の成立ができたこと。  
身近な地域から自分との関りを考える中で、学習問題に対し自分のこととして考え興味・関心が高まった。
- ・身近な材を扱うこと及び振り返りカードによる自主的に学習に取り組むことができること。  
毎時間の振り返りを1枚のシートでまとめることによって、児童自身で単元が進むにつれて自身の考えの変容を振り返ったり深めたりすることができた。

●課題

- ・教師の発問の仕方について、ほかの発問の仕方はなかったのか。  
横浜市民病院を引き出させるための発問をしてしまったのではないかという反省が残る。  
材との出会わせ方を工夫する必要があったと考えている。

### 視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり

○成果

- ・既習の内容を含め、国民主権という観点から考えることができた。  
横浜市民病院の新整備事業を通して、地域の住民と行政が一体となって国民生活の安定と向上を目指していることを理解し、社会参画意識をもつことができる子どもの姿を目指すことができた。
- ・ICT機器及びツールを使用して、資料を効率よく活用することができた。  
数ページに及ぶPDF資料や調べ学習に必要なHPなどを子どもたちは、自分のペースで読みこみ、その中から教師側が意図し、気づいてほしい点などに目を向けることができた。

●課題

- ・資料の活用の仕方について、ほかにどのような方法があったか。  
見通しをもって資料の提示をしないといけないと改めて感じた。

## ・『協議内容』

- ・ 分かりそうだけど、分からない。というのが子どもの学習にとって面白い。
- ・ 最初に「426億円だし、それだけのお金をかける必要があったのか」と問い、議事録につなげるのはどうか。
- ・ 横浜市立病院と発言があった後の「ああああああ」をより深めていきたい。
- ・ 政治に関する施設の基準を定めるとよいかも。
- ・ 政治とのかかわりを継続的に行うことが重要である。
- ・ 距離的に身近であることが重要である。地図を利用するのもよかった。
- ・ 市民のための、願いの詰まった施設であることがよい。→どんな願いがあったのか考えさせてもよいかも。
- ・ 市民病院と他の病院の違いをおさえると良いかもしれない。市民病院は普段利用しないという点から、学ぶ視点が広がる。
- ・ どんな過程で病院が新しくなったのかという学習の流れでもよいかもかもしれない。
- ・ 地下鉄や公園、学校や病院など市の綺麗にしたい場所はたくさんある。その中でどうして病院を選択したのか。というアプローチ方法はどうか。

<講師の先生より>お話された順番

### 川和東小学校 校長 高島 聡 先生

- ・ 身近な材を使っていることが興味深い。身近だが身近でない。この点も大事である。
- ・ 子どもの生活と間接的にかかわっている。自分たちの小学校であったらどんな材を使うか考えていくことが必要。
- ・ 練り上げと呼ばれる時間の使い方。

### 菊名小学校 校長 野間 義晴 先生

- ・ 地域の住民より道が狭い等の悩みがあり、12, 3年前から委員会を設立し、計画を練っていた。426億とは最も安く行った方法であり、他にもいくつか案は存在した。できるだけ低予算で行った事実をどう取り上げるか。それと関連して「なぜ三ツ沢に建てられたのか」という取り上げ方もありかも。必要感を明確にするとより学びが深まる。
- ・ おもしろそうだけでなく、継続的に考えられるように材を活用していくことが大切。
- ・ 単元デザインの中でより短く病院にたどり着く方法があったかもしれない。
- ・ 中核医療の性格を確認し、病院、市民、行政など様々な視点から見る必要がある。
- ・ 願いから単元を構成し、その中で政治など様々な関連を探していく。
- ・ 資料の使う意図をしっかりとって使うことが重要である。→教材研究の大切さ。

文責 益満 順也 (三ツ沢小学校)